



親を避けるようになる NO2

先月のお便りで、子どもが反抗期や思春期を迎えると、親に内面を見せなくなったり、拒否的になったりということが起こることをお伝えしました。それらとは別に、家や学校であった事や友だちの話を一切しなくなったり、日常話すときに目を合わせなくなったり、さらには親の目を盗むような不自然なふるまいがある等、親を避けるような態度をとることがあります。

このような態度のかけには、いじめにあうなど大きな悩みをかかえて耐えている場合や非行など反社会的なことに足を踏み入れていて隠そうとしている場合があります。その後半の「非行に足を踏み入れた」場合について紹介をします。

ケース2 非行に足を踏み入れ、隠し事をしている

このゲームソフト
どうしたんだ？



友だちから借りたんだよ。
勝手に部屋に入るなよ！

対応 大人として誠意と解決への強い意志をもって話しましょう

父親「このゲームソフトどうしたんだ？」
A男「・・・だから友だちから借りたんだよ」
父親「友だちって誰？」
A男「B男だよ」
父親「今まで、友だちからものを借りたりもらったりしたときには、必ず言うように言っていたし、A男は、そうしていたよね。」
A男「・・・」
父親「それに、まだ封を切っていないものを貸してもらったというのは、父さんはおかしいと思うよ」
A男「・・・」
父親「父さんも母さんも本当に心配してるんだよ。しっかりと父さんの目を見てごらん。・・・誤ったことをしたら、それは、早く戻さなければならない・・・そうだろう？」
A男「・・・ごめんなさい。実は・・・」

ポイント 子どもは、防衛のために反抗的になったり、攻撃的になったりしますが、いちいちその態度に反応せず、落ち着いて毅然と善悪について示しましょう。

臨床心理士から

思春期を迎えるころから、子どもたちは自我を主張するようになり、大人から自立することを求め、親に反抗的な態度をとったり避けたりするようになります。一方で、親に対する甘えや依存の感情も見え隠れし、《自立と依存の葛藤》に悩む時期でもあります。相談者の話を伺うと、思春期になっても親離れ・子離れしにくい親子の姿を見ることが多くあります。しかし、このような親を避けるようになった子どもの姿は、親にとってはわが子が成長した姿として見るべきであり、今までの関係とは異なり《心理的距離》をおき《子どもを見守る親子関係》のあり方が求められます。

しかし、ケース1や2のように、不自然な形で親を避ける子どもの姿に対しては、親としての積極的なかわりが求められます。この時期の子どもの親に対する気持ちに配慮しながら、親として子どもときちんと対峙していく必要があります。

※「イラスト版こころのケア」子どもの様子が気になった時の49の接し方」より

11月の来校日
11月5日・12日・19日・26日 ※いずれも金曜日です



宝泉中学校
令和3年11月号
生徒用

2学期も折り返しです！

朝夕寒さを感じる季節になりました。2学期も折り返しです。体調や心の調子はどうですか？

ストレスたまりまくり？いや大丈夫？ちょっとやってみましょう。



SOSの人は、ぜひ相談室にお話に来てくださいね。